

Pastor J.D. Farag 2019 9.11

祈りが答えられないように見える時（新約聖書：コロサイ人への手紙 4章2～4節）

<https://www.youtube.com/watch?v=GTaMWPmmhR4>

「コロサイ人への手紙4章」を始めます。2節からです。6節まで進もうと考えましたが、聖霊の導きで、4節までと感じたので、そこを見ていきます。出来ればお立ちになって、私が読む個所について来てください。使徒パウロが手紙を書いています。2節。

コロサイ4

2 目を覚まして、感謝を持って、たゆみなく祈りなさい。

3 同時に、私たちのためにも、神がみことばのために門を開いてくださって、私達がキリストの奥義を語れるように、祈ってください。この奥義のために、私は牢に入れられています。

4 また、私がこの奥義を、当然語るべき語り方で、はっきり語れるように、祈ってください。

一緒に祈り、神に私の理解を深めて下さるよう祝福をお願いします。

愛する天のお父様。私達は、あなたの御言葉に感謝します。

あなたが私達に与えて下さった、この美しいあなたの教会で、共にこの時間を過ごせることを感謝します。私達が当然のように思っていたり、この祝福を自分たちのもののように思っているなら、どうかお許しください。この美しい場所で、礼拝し、自由に聖書を開けて学べるのですから。

主よ。どうか、あなたが聖霊によって、私達を集中させ、私たちの集中を保ち、思考が散らないよう導いてください。

主よ。どうか、敵が私たちの思考の中に気を散らす考えを置いたり、あなたが今日ご用意くださった御言葉から私達を遠ざけるような考えを置かせないようお願いします。主よ。私達はあなたに専念したいのです。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

アーメン。お座りください。ありがとうございます。

今日私がお話したいのは、祈りに関して、良く質問される内容です。具体的に言うと、なぜ時折、私たちの祈りが天井で跳ね返って来て、答えられないように感じるのか？

『祈りが答えられないように見える時』

私は、今日の聖句に関して、主の御心を求めた時、この問題を、このようにアプローチするように主に迫られたと感じました。なぜならパウロは、祈りの事を言っているだけではなく、祈りを依頼しているのです。しかもそれは、私達が考えそうな事ではなく、また私たちなら、こうは依頼しなかっただろうと思います。ちょっと時間をかけてこの聖句を熟考しながら、私たちの前にあるこの聖句に、主が織り込んでおられる事を、私に導いて下さり、それが、まさにその「なぜ？」に対する答えだったのです。時おり、私たちの祈りが答えられないように見えます。そして、私が、Seem/~に見える Seemingly/表面的に、この単語を使う理由は、それは、神はいつだって私たちの祈りを聞いて答えて下さるからです。

神はいつも、私たちの祈りに3つの方法の中から答えて下さいます。

それは、①はい ②だめ ③待ちなさい

私は、①はい が大好きです。神が、「はい。」と言って下さると嬉しいですね？「だめ。」と仰られるのは大嫌いです。皆さんもでしょう？しかし、私が一番葛藤しているのは、神が、「待ちなさい。」と仰る事。時おり、私は自分の祈りの生活で、間違ってしまうのが、神が遅らせておられることを、神が拒否されていると考え違いするのです。その意味は、パウロが言っているように、時おり自分が祈り、祈りに専念する時、そして、それがまるで どういうわけか、神は、私の祈りに、私の望み通りに、私が望むタイミングで答えられない方が良く考えておられるように見えるのです。そして、私は落胆し、私は、「なぜか？」を自問しなければなりません。

今日私がしたいことは、“なぜか？”という疑問に答える事です。時おり、祈りが邪魔されるのは、何故なのか？または、答えられないかのように見えるのは、何故なのか？1番目は、2節の中に答えがあります。そして、それは、私達に持続力がないか、一貫性がない為です。パウロが祈りに専念するよう言っている時、“絶え間なく、祈りなさい”とっています。

私達って、よく諦めてしまいます。早すぎる段階で。私達って祈り始めて、祈り続けて、何も起こらなければ、祈るのをやめる。パウロが言っているのは、“祈りを止めない！”です。祈り続ける事。

「はいでも、祈り続けても、何も起こらないように見えます。」

「もっと最悪なのは、私が祈ると、もっと悪くなって行くのです。」

皆さん、2~3週間前から、イエスが、喩えを使って教えておられる、しつこいやもめについて、たくさん話しました。そして、初めから私達に告げられているのは、その学びのポイント、レッスンのポイントは、“絶えず祈り、諦めるな”と私達に教える事です。大変興味深い喩えで、この喩え話の中で、不正な裁判官がいて、あるやもめが、正当な裁判をしてもらえず、保留にされているのです。

彼女は、正当な裁判をしてもらいたく懇願します。そして彼女は、懇願することを決して止めない。

彼女は頼み続け、懇願し続け、訴え続け、祈り続けます。そして何も起こりません。でも彼女は決して諦めない。そして最終的に、不正な裁判官は、「うるさくてかなわない。」こんな感じです。

「この女は、夜中の3時にでも、電話やメールを送ってくるだろう。」

「彼女は決して止めない。」「彼女を止める唯一の方法は、彼女に正しい裁判をする事だ。」

そして裁判官は裁判をしたのです。ただ、神が、この不正な裁判官のようだなんて絶対に考えてはいけません。いやいや裁判を行う裁判官。私や皆さんが祈って決して諦めない時、こんな風に、

「わかった！もう分かった！」「もう止めてくれ、私の前から消えろ。」

神は違います。この喩えのポイントはこうです。不正な裁判官でさえ、正当な裁判をこのやもめにするのなら、皆さんの義なる裁判官、全宇宙の裁判官は、どれほどであるか？何が必要条件か？

必要条件は、決して、決して、決して、決して、決して、諦めない事です。何があっても。

2つ目。2節にあります。

『目を覚ましていない』か、または、『感謝していない。』これに関して、ちょっとご辛抱ください。

何故かという、これが少々理解し難いですが、これが本当に、祈りが邪魔されることの理由になりえます。パウロがここで言っているのは、私たちは、警戒・精励・感謝の態度で祈るべきである。

警戒とは、目を覚まして警告する感覚です。イエスが、ゲッセマネの園で、ペトロ、ヤコブ、ヨハネに「目を覚ましていなさい。」と仰ったことを思います。

「目を覚まして、一緒に祈りなさい。私の為に祈りなさい。」と。イエスは、十字架に向かおうとされていました。これが、警戒。精励して、つまり、一生懸命に励む事。そして、考え違いしないでください。祈りは大変重労働です。敢えて言いますと、祈りは、重労働/Hard Workだけでなく、心の労働/Heart Work でもあります。私が提案したいのは、私達が警戒して、精励するときに、感謝の態度をとる事です。私達が祈る時、感謝を込めて祈ります。皆さん、私が驚愕したのは、「ルカの福音書17章」にある、10人の皮膚病者のことです。それは、聖句本文に詳細があって、彼らは、イエスに癒しを懇願するのです。彼らは、イエスに、癒してもらおうと祈り、お願いし、懇願します。

イエスは憐れんで、10人全員を癒されました。しかし皆さん、その中の何人が癒して下さったイエスに感謝する為、戻って来たでしょうか？1人だけ。私がびっくりしたのは、イエスが、この事を御心に留められたと書いてあることです。神は聖霊により、この事を聖書本文に書く必要があるとお考えになるほどだった。この事は、救世主の御心に留まった。10人の内1人だけが。そしてその1人というのは、ユダヤ人ではなく、サマリア人だった。これは、信じがたい事だったのです。10人の内の1人が戻ってきて、イエスに言った。「主よ。ありがとうございます。」「主よ。感謝します。」

この箇所が、感謝しながら祈ることが、最高に重要であることを物語っています。皆さん、時に祈りは、自分の要求リストになりえます。私達が、神の下へ行き祈るのは、自分が何かを求めている時だけ。「詩編」の学びを通して、懇願のない祈りがいくつかありました。ただ純粹に讚美する「詩」。何もお願いすることなく、でもあらゆることを神に感謝する。興味深い事に、使徒パウロが「ピリピ人への手紙4章」で書いています。6節から8節です。心配を癒すことについて。

ピリピ4

6a どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。

ではどうすればいいか？

6b 何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。

何事につけ祈り、あらゆることを神に感謝するなら、心配はなくなるのです。

「何が言いたいのですか？」 「感謝と祈りが、それほど大事だ、と？」

ええ、それは信じた方が良い。「テサロニケ第一5章」を聞いてください。16節から18節です。

パウロが聖霊によって書いています。

テサロニケ第一5

16 いつも喜んでいなさい。

17 絶えず祈りなさい。

18 どんなことにも感謝しなさい。

あなたが考えつく全て・あらゆることを、神に感謝しなさい。コストコ・イビレイ店のパーキングに 駐車できたことを感謝します。コストコの中で最も混雑している店舗です。 たぶん地球上の全コストコの中でも。皆さん、ええ～何故か知りたくないですか？なぜ、いつも喜んで、絶えず祈り どんなことにも感謝するのか？パウロはその理由を言っています。言いますよ？

テサロニケ第一5

18 これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。

私たちの人生で、何が神の御心か 知りたいですか？ここですよ。ここ！

テサロニケ第一5章の16節から18節です。それが神の御心。

「いつも喜んでいなさい。」 「絶えず祈りなさい。」そして、「どんなことにも(状況にも) 感謝しなさい。」

あらゆる状況にも。「ええ、でもね。。。」

「こんな_____状況に、私が感謝することなど 神は、絶対に期待していませんよ。」

皆さん、空欄_____を埋められますね。私は自分の空欄を埋めます。私は自分の問題や、自分の事情を皆さんにぶちまけたりはしませんが。そう、これがパウロの言っている事です。どうすれば可能なのか？

またなぜ、これがそんなに重要なのか？なぜなら、それによって、私たちにとって、私達に対して、私たちの中で、起こる事の故です。

私達が、当然だと思っているような、どんな些細なことにでも神に感謝をする時、今日ここへ来る途中に私が考えていたのが、ただ神に、この美しい教会を感謝していたのです。

ところで10月2日は、皆さん信じられますか？この美しい教会の3周年ですよ。この美しい教会での最初の礼拝は、2016年10月2日でした。忘れかけそうでしたが、3年ですよ。そう間違いない。

今2019年ですから、3年です。私達は、絶対に、感謝を無くし、当たり前だと思いたくありません。

神が、教会としての私達にして下さった事に。奇跡と言っても誇張ではありません。神に感謝をしながら、考えるあらゆることを神に感謝します。なぜならそれが私を内外から 変えて下さり、また、今の状況の見方を変えて下さるから。あらゆる状況下で、神に感謝し始めると、私に必要な展望を与えて下さるのです。特に逆境が襲い掛かる時に。

では3つ目。これは重要です。これに少し時間をかけます。3節と4節です。

『私たちは正しい祈り方をしているが、間違っただけの為に祈っているかも知れない。』これが興味深いのは、この手紙を書いているパウロは、投獄され、地下牢に座って、これを書いている事です。

彼は監禁されています。この時代の牢屋は、現代のような牢屋では決してありません。全く違って違います。基本的に、死に至らしめるために、投獄され監禁されるのです。

そのために、投獄された人に、家族や友人が最低生活備品を持って来なければならなかったのです。

さてお伝えしたいのは、皆さんにオープンに、正直にお話ししますが、もし私が投獄されていたら、そして皆さんに、私の為に祈ってほしいと頼むなら、私が、皆さんに、何を祈って欲しいとお願いすると思いますか？

「私は、ここから出たい！！」

パウロはそんなこと頼んでいません。彼は、もし私がパウロなら、、、そんな目で見ないでください。

皆さんもきっと私と同じことを頼むはずですよ。

「私の為に祈ってください。私は投獄されているのです。不当に！！」

「私は不当にもここにいます。」

「この監獄の鉄の檻の中に居ては、何も出来ない。」

「お～。いや、貴方にはできる。」

ここで考えます。パウロは、祈りに関して、私達一人一人が知る必要のある何かを知っています。

時おり、私達は間違っただけ祈ります。こんな風に。

私の脚色と馬鹿げた説明を お許しください。自分の祈りの生活を考えます。祈って、神にお願いするとき、

「神よ。どうかこれを叶えてください。」

すると、神と、私の担当の御使いが 私の祈りを聞きながら、こんな感じで、

「(ダメダメダメ。)」 「あなたは、それを望まない方がいい。」 「それを祈るのを止めなさい。」

「それを祈らないで。」

また時おり、私達は小さすぎる祈りをします。で、今や、祈る人と祈りの両方を変える必要がある。

もう一度言います。もし祈りが間違っているなら、祈りを変える必要があります。

神が、その祈りに答える事は出来ないのではなく、神は、答えないのです。

神が、答えないのは、主は、初めから終わりまでご存知だから。

私の祈りの生活で、偉大な励ましなのが、この、一つの真理を知っている事です。

神がご存知であることを私が知っていたなら、私とその祈りに答えるのとまさに同じように、神は、私の祈りに答えてくださいます。問題は、自分は、神がご存知なことを知らないという事。ショックですね。神は全知全能です。神は、初めから終わりまでご存知です。神は、私が祈っていることが、最終的に私にとって良いかどうか、ご存知で、私にはそれが分からない。だから頼み続けるのです。

パウロは、投獄から解放されることを頼んでいない。どうすれば、そんな事が可能になるのか。

私が信じているのは、パウロは知っていたからだと思います。神は、牢獄の中でパウロに対して、このミニストリーの中で、さらに多くの扉を開けておられた事を。パウロがいるまさにその場所で。そして、皆さん、もしかすると、今日、ここに居て、皆さんの人生の中のある状況の中で思っているかも知れません。

「ああ、この場所に縛られていなければ、もっと多くのことが出来るのに。」

気づかれませんか？ 分かりませんか？

神には、目的があって、いつの間、あなたを今の場所に置かれたのです。で、あなたは神に祈っている。

「神よ。私をここから出して下さい～ この仕事から救い出して下さい～」

「この場所から出して下さい～」 「この状況から助けて下さい～」

祈りが間違っています。こんな気の利いた言葉があります。

祈りが間違っているなら、神は、「No/駄目。」と仰います。

自分が間違っているなら、神は、「Grow/成長しなさい。」と仰います。

タイミングが間違っているなら、神は、「Slow/ゆっくり行きなさい。」と仰います。

タイミングが正しく、自分が正しく、要望が正しいなら、神は、「Go/行きなさい。」と仰います。

指摘したい点が、もう2～3あります。最初読むと分かりにくいのですが、最初の箇所、パウロが祈りを頼んでいるのが分かります。あまりにも当たり前のように聞こえるのは、私も分かっています。

これは使徒パウロですよ？そうですね。いいですね？ 私はパウロに、自分の為に祈ってほしいと頼んでいますよ。それが、パウロが私に、彼の為に祈ってほしいと頼んでいる？ええ。愛をこめてこれを言います。考えると、頻りに祈りが聞かれないのは、私達が、へりくだって祈りを頼んでいないからでは？もう一度言わせてください。それには、謙遜が伴うのです。そうでしょ？

兄弟姉妹に話すとき、「今、祈ってほしいんだ。」「私の為に祈ってくださいますか？」

皆さん、悲しいのは、祈りを頼むと自分が弱く、信仰がないかのように見えるのが怖いこと。

具体的でない。これが、2つ目です。パウロは祈りをただ頼まないのではなく、彼は、大変具体的なリクエストをしています。私たちの祈りと言うのは、時おり あまりにも一般的過ぎます。と言って良いですか？ もう言っていました。明確な具体性。それには大きな理由があるのです。もしも、私達が、「神様、世界に平和をお願いします。」と祈れば、そう神は、千年王国後それを叶えてくださいます。「主よ。みんなを祝福してください。」と祈れば、それは測り知れません。そうではなく、私たちの祈りの中に、具体性が要るのです。しばしば、私たちの祈りが答えられないままであるのは、具体的な祈りではないから。パウロは、祈りを頼みだけでなく、具体的な何か、皆さんは、パウロがそんな祈りは必要ないだろうと思う何かを、彼は頼みました。皆さんのパウロを見る目、私がパウロを見る目から、つまり私は、使徒パウロは、恐れがない人だと見ています。不屈で大胆不敵な男。私は、威圧的な人を想像します。彼が、部屋の中に入ってくると、「うわ～。あれが使徒パウロだ～！！」

皆さん、そんな彼が、何の祈りをお願いしたと思いますか？大胆さ？！冗談でしょ？！これは使徒パウロですよ？！彼は大胆さを祈ってほしいと頼んでいます。

コロサイ4

4 また、私がこの奥義を、当然語るべき語り方で、はっきり語れるように、祈ってください。

はっきりと、大胆に、イエス・キリストの福音を伝えられるように。そして彼は、神がこのために門を開いてくださるように、祈って欲しいと。鉄格子の向こうに投獄されているのに。何を言っているのか？！神は私に思っておられるのは、この鉄格子の外に出すことではなく、神が御言葉の為に門を開いてくださる事。神が開いてくださる扉は、誰も閉めることはできない。そして、人間が扉を閉めるなら・・・黙示録3章を、すっかりこんがらがってしまいました。後で読んでください。

もうちょっとだったのに、いつものように すっかり飛んでしまいました。言い換えれば、神が門を開けて下さる。他の理由があります。皆さんよろしければ、ざっとお教えします。余すところはありません。

祈りが聞かれない別の理由は、不信仰なためです。「マタイの福音書17章」19節から21節です。

マタイ17

19 そのとき、弟子たちはそっと イエスのもとに来て言った。『なぜ私たちには悪霊を 追い出せなかったのですか？』

マタイ17

20 イエスは言われた。（悪霊を追い出せなかった理由は、）

...『あなたがたの信仰が薄いからです。まことに、あなたがたに告げます。もし、からし種ほどの信仰があったら、この山に『ここからあそこに移れ』と言えば移るのです。』...

...どんなことでも、あなたがたに できないことはありません。』

21 (ただし、この種のもは、..."注意してお聞きください"... 祈りと断食によらなければ出て行きません。)

私の人生にも、重大な状況や 大変な事態に直面した事があります。その時、私に、祈りと断食が要求されているのが分かりました。不信仰は、興味深い言葉です。"Word Faith" の教えは偽教義で、キリストの体へ非常にダメージを与えています。「信仰があれば、ベントを手にできる」と言います。

「赤ん坊をお風呂のお湯と一緒に捨てる」 (大事な物を無用な物と一緒に捨てる) の格言通り、真逆の極論に行っています。イエスは仰いました。「信仰は超微小でも、からし種ほどの信仰で良い。それだけあれば良い。」ところで、「テモテへの手紙」で

テモテ第二2

13 私達は真実でなくても、彼は常に真実である。彼にはご自身を否むことができないからである。

イエスに言った男の事を考えます。

マルコ9

24 「信じます。不信仰な私をお助け下さい。」

「信仰のない私をお助け下さい。」では話を変えて、具体的に夫の男性方に。

ペテロの手紙第一 3章

7 同じように、夫たちよ。 妻が女性であって、自分よりも弱い器だと いうことをわきまえて妻と共に生活し、...

別の翻訳では、「理解を持って一緒に住もう。」 「理解を持て」 「思いやり深くあれ」

...自分よりも弱い器だと いうことをわきまえて...

劣っている者としてではなく、肉体的に、感情的に弱い者として。

...いのちの恵みをもとに受け継ぐ者として、尊敬しなさい。...

なぜか？

...それは、あなたがたの祈りが 妨げられないためです。

男性方、話し合いませんか？これが何を意味するか分かりますか？これは、我々の妻への扱い方が、本当に我々の祈りを妨げることになる。想像できるでしょう。これは私自身に言っています。何度、神に祈り、懇願してきて、神に、「あなたは何をしているのか？」と言われたことか。

「あ～私は神に祈っているのだ～」

「なぜここにいるんだ？」 「神に祈っているからです。」

「妻に正しい事をしてから、戻って来なさい。」

「え??！」

「私はあなたの祈りを聞かない。」

「奥さんと交流をして、それを先にきちんとしてからです。」

「マタイの福音書5章を見なさい。」

イエスが教えておられます。

マタイ5

23だから、祭壇の上に供え物をささげようと しているとき、もし兄弟に恨まれていることをそこで思い出したなら、

24供え物はそこに、祭壇の前に置いたままにして、出て行って、まずあなたの兄弟と仲直りしなさい。 それから来て、その供え物をささげなさい。

イエスは、今日の多くの夫の皆さんに 言っていると思います。もう一つ。『意図的な不従順』

ただ、明確にしておかなければなりません。というのは、罪があったなら、なんと私たちは、みんな地獄へ向かっていたのです。私達は、みんな罪を犯しましたから。しかしここで私は「罪」の事を言っているのではなく、「意図的な罪」についてを言っています。神に対し、意図的に不従順になることについて。「箴言28章9節」を聞いてください。

箴言28

9 教えに耳をそむけて聞こうとしない者は その祈りも忌むべきものと見なされる。

想像できますか？これには、意図的な不従順が伴います。私達は、故意に、「ええ、そうそうそう！」的に。聖霊が私達を非難しているのではなく、咎めているのです。咎めている。

私達は、これについて木曜日の夜、少し話しました。非難と言うのは、敵が私たちの人生に建て上げる罪の意識の基盤です。特に性的な罪の場合、「箴言5章」に全てが書いてあります。しかし、聖霊の、清める小さな声が、あなたを咎める時に、そして、あなたは、はっきりと分かっている。聖霊が指摘していることを。私たちが聖霊を無視して、耳を傾けず、聞く耳を持つとうとしていないのに、祈ろうなんて思わない方が良いでしょう。事実、皆さんが祈る全ての祈りは、想像してください、神は、「止めなさい。それは聞けない。」「私には答えられない。」「私には出来ない。」

神が、なさらないのではなく、出来ないのです。それは、神のご性質に矛盾するのです。神の聖なるご性質に。これを最後にして、締めくくります。

『自分本位な動機』これは大変分かり易いです。例によって、ヤコブが皆さんに面と向かって語っています。それは、皆さん文句は言えませんか。彼はイエスの半分兄弟ですから。ヨセフとマリアから生まれ、想像出来ますか？同じ家で、一緒に育つのです。神と一緒に。兄弟として！彼の部屋はいつだって綺麗にしてある。彼は、いつも従順である。

「なぜお前は、兄弟みたいになれないのか？」と言われる。「ヤコブの手紙」を読むと、はっきりと面と向かってズバット言う。「ヤコブの手紙」を読み終えると、大変すっきりします。良い意味で。彼が言っている事を聞いてください。3節。

ヤコブ4

3 願っても受けられないのは、自分の快樂の為に使おうとして、悪い動機で願うからです。

彼が他に続けて言っているのは、

4 貞操のない人たち、世を愛することは 神に敵することであることがわからないのですか。...

...世の友になりたいと思ったら、その人は 自分を神の敵としているのです。

「何を考えているのか?!」と。祈って、神にお願いしながらフラフラして、さらには神に対して腹を立て始め、神に対して怒り、神を責めてる。「神よ。なぜ聞いてくださらないのか？」なぜなら、「あなた方の心が間違っていて、あなた方の動機が間違っているからだ。」

このメモで終わりたくなかったのに。なぜここにあるのか、分からないのですが、他のところに入れるべきでした。でも、"良い知らせ"です。私達は、火曜日の夜目撃したのです。神の民が祈る時、神はお聞きになり、神は動いてくださる。神の民が祈る時。祈りましょう。

天のお父様。ありがとうございます。

主よ。私達が賛美していた時、私は考えていました。

自分自身の人生で分かっているのが、この教会にいる全ての人々に、私が祈り、望むことは、私たちが今日、見て、話した事のいずれも、決して、私たちの祈りを妨げる理由にならないように。

主よ。どうか私たちがここで見たことを用いて、私たちの人生に適応出来るよう、そのプロセスを聖霊によっ

て始めてください。
それが、私たちの人生に、現実になりますように。
主よ。私たちを助けてください。
私たちが祈りと呼ぶ物を 再認識できますように。
私達が祈る時に与えられる力を、新しく味わえますように。
イエスの御名によって祈ります。
アーメン。

メッセージby JD Farag

牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記hukuinn7